

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団	
施 設 名	足利市民会館	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	27,815	(千円)
公 演 事 業	15,338	(千円)
人 材 養 成 事 業	10,652	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,825	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	専属プロフェッショナル芸術団体足利ミュージカル第5回定期公演	平成30年7月8日	演目:里見八犬伝(全2幕) 出演:足利ミュージカル 客演:和泉佑三子(元宝塚歌劇団)ほか	目標値	910
		大ホール		実績値	682
2	専属プロフェッショナル芸術団体足利カンマーオーケスター2018足利創生活動	平成30年12月7日	第13回定期演奏会 曲目:シューマン/「マンフレッド」序曲作品115ほか チェロ:宮田大 管弦楽:足利カンマーオーケスター	目標値	960
		大ホール		実績値	742
3	専属プロフェッショナル芸術団体足利オペラ・リリカ2018足利創生活動	平成31年1月27日	第5回定期公演 演目:ヴェルディ/歌劇「マクベス」 指揮:時任康文 出演:足利オペラ・リリカ	目標値	1,100
		大ホール		実績値	635
4	準フランチャイズ芸術団体連携プロジェクトN響プロジェクト2018	平成30年11月17日	指揮:ジャンドレア・ノセダ 曲目:ラフマニノフ/交響的舞曲作品45ほか 管弦楽:NHK交響楽団	目標値	1,100
		大ホール		実績値	815
5	足利市民会館・海外オーケストラ「交流・教育」プロジェクト	平成30年5月25日	指揮:佐渡裕 管弦楽:トーンキュンストラ管弦楽団 曲目:バーンスタイン/交響組曲「波止場」ほか	目標値	1,100
		大ホール		実績値	1,182
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	5,170
				実績値	4,056

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	附属芸術団体「足利ユースオーケストラ」2018足利創生活動	平成31年1月20日	発足10周年記念事業《ユース×バレエ》演目：～夢いっぱい 「くるみ割り人形」全2幕～ 指揮：井田勝大	目標値	2,200・5,500
		大ホール		実績値	1,633・延5,512
2	専属プロフェッショナル芸術団体「足利ミュージカル」研究科・第7期	平成30年4月1日～平成31年3月31日	講師：小嶋希恵（芸術監督）、秋葉敦子（元宝塚歌劇団）ほか 研究生：キッズコース23名、大人コース21名	目標値	200・1,600
		小ホールほか		実績値	395・延1,389
3	専属プロフェッショナル芸術団体「足利オペラ・リリカ」研究科・第7期	平成30年4月1日～平成31年3月31日	講師：大隅智佳子（音楽監督） 小林昭裕（副音楽監督）ほか 研究生：5名	目標値	200・8
		小ホールほか		実績値	51・延167
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,600・7,108
				実績値	2079・延7,068

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	足利地区小中学校芸術教室事業 鑑賞プログラム 中学校演劇教室	平成30年7月5日、6日	演目:里見八犬伝 脚本・演出:小嶋希恵 出演:足利ミュージカルほか	目標値	1,700
		大ホール		実績値	1,894
2	足利地区小中学校芸術教室事業 小学校出前コンサート (音楽・伝統芸能)	平成30年6月14日～ 平成30年12月11日	出演:足利カンマーオーケスター、 足利オペラ・リリカ、地元伝統芸能 継承団体ほか	目標値	1,900
		市内各小学校		実績値	1,915
3	子ども伝統芸能総合プロジェクト「地域伝統芸能体験・成果発表会」	平成31年1月13日	出演:杵家会足利支所長唄登会、伝 統文化子ども八木節会、あしかが子 ども歌舞伎ほか	目標値	400・100
		大ホール		実績値	310・92
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,000・100
				実績値	4,119・92

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

足利市には日本最古の学校であり日本遺産である「史跡足利学校」があります。足利市はこの史跡足利学校を生涯学習・教育などあらゆる学びの原点とし、「素通り禁止！足利プロジェクト」といったシティプロモーションとして発信しています。

そして、この特性を活かし、当館は史跡足利学校の「学びのこころ」を基に、〈芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ学びのこころ～〉と題して、①市民文化の高揚と熟成、②子どもたちの芸術環境づくりの推進、③福祉社会への側面的支援、④未来の人材育成、⑤地域交流をとおしてのにぎわい創出、以上のミッションを掲げて事業を行ないました。

各ミッションに対して、NHK交響楽団や佐渡裕氏が指揮する演奏会およびアウトリーチ（①）に加え、当館専属プロ芸術団体による公演およびアクティビティ（①）、福祉施設へのアウトリーチ（③）、市民参加型公演やミュージカルやオペラの研究科開設によるプロ・アマの担い手の育成（④）、市内小中学校と連携し青少年を対象とした伝統芸能の普及・継承プログラム（②）、地域コミュニティの再生と形成を目的とした劇場内外での普及公演や公演サポーターの導入（⑤）を行ないました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当館は先述のミッションを基に、芸術をとおした学びの心の育成と地域活性化に取り組んでいます。なかでも、当館専属プロ芸術団体足利ミュージカルは、地域の親子のニーズによりキッズコースを新設しました。公演では「里見八犬伝」をとりあげ、作品の時代背景が足利学校を再興した時期であることに触れ、本公演がきっかけとなり鑑賞者をはじめ多くの人々が足利学校を訪れるよう促しました。

また、当館と特別な関係を構築しているN響や佐渡裕氏による地方定期演奏会による市民文化の向上と足利市のPRに加えて、地域の特性を活かした文化芸術によるシティプロモーションで交流人口の増加にも取り組みました。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

史跡足利学校が足利市の学びの象徴であることから、当館は「芸術をとおした学びの心の育成と地域活性化」という目標を設定しました。

公演事業は、過去の実績を基に設定した入場者数の目標は達成できなかったものの、佐渡裕氏による市内外の吹奏楽顧問を対象とした指導者クリニックや高校生バンドクリニックなど長年の信頼関係に基づいた新しい試みを行い、芸術をとおした学びという目標は達成しました。

人材育成事業は、①当館専属プロ芸術団体の活動が地域の人々の暮らしのなかに浸透すること、②当館専属プロ芸術団体の参加者（芸術の担い手）の育成を目標としました。その人数は指導者と協議し、指導者の声・指導が十分に行き届く人数を指標としました。①に関しては、足利ユースオーケストラ講師および団員による楽器体験ワークショップの参加者が前年15名から46名と増加しており、これまで助成を受けて活動してきた実績が地域の人に受け入れられた結果だと推察します。②に関しては、足利ミュージカルが地域の親子の「参加したい子どもの受け皿を作って欲しい」というニーズに応えたことから、44名が参加しました。これは鑑賞者が公演に感化され、「自身もあの輪の中に入りたい」という想いが参加人数の増加につながったと推察します。

普及事業は学校と連携することで、ほぼ市内全域に芸術鑑賞・体験を行うという目標を達成できました。これは芸術の入口をつくるだけでなく、多くの同世代が一堂に集まって同じ芸術を鑑賞し、その感想の共有または差異に気づき、共感・多様性の容認という芸術をとおしたコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図りました。出演団体は伝統芸能団体のほか当館専属プロ芸術団体も参加しました。これにより人材育成の成果が普及活動でも発揮され、芸術を学び、それを活かし、それに共感した人が参加するという「育成→参加→新たな育成」のサイクルをつくりました。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当館は長期的な計画で公演およびアウトリーチを年間通して行ない、「いつでも」「身近に」「気軽に」文化芸術に触れることができる環境づくりに取り組みました。公演事業では、市外からも多くの来場者が見込まれるN響の演奏会を、市と連携し史跡足利学校で開催される伝統行事（11月）の日程と調整しました。その結果、公演だけでなく史跡足利学校でのアウトリーチコンサートが可能となり、2012年以降増加傾向となっている足利市来訪者に、地域の文化資源と芸術活動を効果的にPRできました。人材育成事業では、足利ミュージカルは、市内だけでなく近隣の市町村や県外からの参加があり、参加者が増加しても講師の指導が十分に伝わるよう練習を68回としました。足利オペラ・リリカは、参加者に多くの経験を積ませるために年間2本のオペラ作品の上演を目標とし練習回数を38回としました。足利ユースオーケストラは、発足10周年を迎え、初めてバレエ公演に挑戦することとなり約2年間の練習を行いました。いずれも予定通りであることから、事業期間は適切であったと考えます。

また、当館周辺には車で40分圏内に9つの公立ホールがあります。両毛地域の人々が多くの文化芸術に触れられるよう公演時期を可能な限り調整しました。普及事業（小中学校芸術教室）は学校と連携し、各学校の授業の進捗の様子など連絡を密にとりながら行いました。1968年から全国でもいち早くこの活動に取り組んだ結果、「これまでに何らかの形で芸術教室を鑑賞したことがある市民」が60%につながったと考えます（2008年当財団独自調査）。これら活動は、実演芸術の鑑賞・体験やサポートなど、芸術への関わり方を多様にしており、長期的には効率的に運用されたと考えます。

事業の収支について、収入は予定をやや下回った事業もありますが、支出を約10%節約し、当初の予定通りに事業を行いました。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館は地域の文化拠点として、史跡足利学校の学びのこころと文化芸術をつなげた5つのミッションを掲げました。このミッションを実現するために当館は、N響との連携（準フランチャイズ芸術団体プロジェクト）や当館専属プロ芸術団体の地域に根差した事業を行っています。特にN響に関しては、1999年に東京以外では全国で4ヶ所しか行っていないN響定期公演開催地となりました。そして、2003年からはアウトリーチなどを組み入れたプロジェクトに発展し、現在も継続しています。アウトリーチは市や学校と連携し、市内小学校や史跡足利学校で演奏会を行いました。史跡足利学校では幼稚園児を招待し、通常のコンサートでは入場が制限される年齢層に音楽を届けることができました。

佐渡裕氏は教育者としての顔も持つバーンスタインに師事したことで「学び」に高く関心があるとの話を耳にしたことから、演奏会および指導者・高校生を対象にしたクリニックを依頼しました。足利市には学びの拠点である史跡足利学校があることから関心をもたれ、以後、定期的な演奏会と交流プログラムを開催しています。

以上は市および当館との長年の信頼関係によって開催できた事業です。これらの事業は市外・県外からの来場が見込めるため、史跡足利学校をはじめ当館の近隣にある観光地を訪れるよう促しました。これにより文化芸術の提供および人材育成のほか、文化芸術によるシティプロモーションをすることができました。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当館専属プロ芸術団体「足利カンマーオーケスター」「足利オペラ・リリカ」「足利ミュージカル」は、元群馬交響楽団コンサートマスターの風岡優氏、二期会会員で多くのオペラ公演でタイトルロールを務めた大隅智佳子氏、元宝塚歌劇団員で多くの宝塚音楽学校合格者を輩出しているKIEミュージカルスクール代表の小嶋希恵氏、東京藝術大学助教で足利市出身のオペラ演出家の直井研二氏、文化政策の研究家で数々の研究実績や著書がある東京大学大学院人文社会系研究科教授の小林真理氏など、各専門家の助言を受けて発足し、様々な創造事業に取り組んでいます。

「足利カンマーオーケスター」と「足利オペラ・リリカ」は劇場だけでなく足利市議会の議場でも公演を行い、その活動を行政に直接見てもらうことで「芸術は足利市の貴重な文化資源」である認識を市全体で共有しています。

特に「足利ミュージカル」は全国の公共劇場では類をみない専属プロ芸術団体です。ミュージカルは「演技」ほか「歌唱」・「ダンス」の学校で履修する芸術分野を複合した舞台芸術です。足利市に縁のある歴代足利将軍が音楽劇・能楽を庇護したのと同様、当館がミュージカルに取り組むことは当市ならではの特徴といえます。公演では「里見八犬伝」をとりあげ、歴史的な視点（妥当性の項で先述）で捉えるだけでなく、日本文学という新しい視点で史跡足利学校を捉えることができ、観光の楽しみ方を多様化させました。

出演者は芸術的・技術的なことを学ぶだけでなく、元宝塚歌劇団員であり、現在も活躍中の女優が指導者となることで、出演者はプロフェッショナルな自覚をもち、公演の質を向上させています。また、出演者はアウトリーチや外部出演など足利市外でも活動を行いました。その結果、チラシ・HPでの広報のほか、出演者が直接市外の人に公演および足利市のPRをすることができました。

このほか研究科では、小学生とその親から「子どもを対象としたコースを開設してほしい」との要望がありました。親子の自ら学ぶ姿勢を尊重するとともに、芸術監督の「長期的な育成をしたい」という意思もあり、キッズコースの新設へと至りました。その結果、参加者・入場者ともに増加しました。

以上のように、足利市の特性を活かし、地域のニーズに応えながら文化芸術とシティプロモーションを関連させながら事業を行いました。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当館の事業運営における持続的可能な体制づくりとしては、財団内での人材養成はもちろんのこと、地域人材の養成にも着目し、取り組んできました。具体的には、芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクトにおける足利ユースオーケストラおよび3つの当館専属プロ芸術団体には、市民による運営委員会が組織されており、事業運営に関わっていただいています。

次に、文化芸術の担い手（実演家）の養成については、足利ユースオーケストラや足利ミュージカル、足利オペラ・リリカ研究科において本格的な養成機関としてその役割を果たしています。

また、支え手（鑑賞者等）の養成については、約半世紀にわたり継続してきた小中学校芸術教室と高校芸術鑑賞会があり、ともに、学校との連携によりそれぞれに運営委員会を立ち上げ運営してきました。そして、1968年からこれまでに延べ160万人余の子どもたちが様々な舞台芸術を鑑賞・体験していただきました。当時の子どもが親になり、そして今は自分の子どもが同様に鑑賞するというサイクルが生まれ、家庭内での共通の話題を創出しています。

一方、当館職員の運営体制の継承については、職員の多くは近く定年退職を迎えることから、これまで培った技術・ノウハウについての継承が1つの課題となります。しかし、専門性を有する職員の育成には、一定の期間が必要となってくることから、退職職員には嘱託職員として引き続き劇場に関わっていただき、次世代の人材を養成するサイクルを構築していきます。

以上のように、当館を取り巻く運営体制の継続性の構築は、地域の人々のニーズや社会情勢などを鑑みながら総合的に進めていくことが肝要であると考えています。現時点で順調にしている運営体制についても再考するなど、改めて中長期ビジョンとその計画の策定に向けて研究をしていきたいと考えています。